

## 七、胎児は知っている——次元が違う母親の体内

(ページ『反省の日々』参照)

先生にお会いしてから、私は二年目になっていたんですね。その頃は、施設を回りながら、自分で先生が仰っている反省というものを続けていったんです。

とにかく、やり始めたら徹底的にやろうと、幼い時から、現在に至るまで、微に入り細にわたって反省をしてみたんですね。

その反省の中で、実は未だに強烈に残っている事があるんです。幼い時の三歳位までは思い出すのですが、一歳〜二歳までの事がどうしても思い出せない。それを一所懸命に分かろう分かろうといろんな方法で突っ込んでいった。

そうしたら或る時に、眼を閉じて反省をしていたら、お腹の中にいる赤ん坊の姿が(心の眼で)観えた訳ですよ。一言で観えると言っても、これは変ですけどもね、お腹に入って逆さになった赤ん坊が出て来て、「これは、一体何だろうな? これは

錯覚じやないかな」と思つて、眼を開く。また静かに眼を瞑ると、また出て来る。

——実は、これは自分が母親のお腹の中にいる時の姿だったんですね。その時には、吃驚してしまいましたねえ。

これは最近、私が他所で話をした時に、お腹の大きい人に、「光を入れてください」と言われて、光を入れたんですね。ズーツと光を入れて暫くしたら、その中から声が聴こえてきた。「あれ、何か言ってるな」と思つた訳ですよ。そして、よく聴いてみると、実はお腹の中の赤ん坊が、

「親が喋っている事、行っている事、全部分かります」

と言うんです。これには私も吃驚しましたねえ。そして、そのお腹の子が、

「親以外の人の一挙手一投足も、みんな分かります」

と、言うんですよ。これにはドキンですね。へツと思ひましたよ。

そしてそのお腹の子供が言っている事を親に訊ねてみたら、本当にその通りなんです。無い事は言いませんよ。

これは以前にも、悪阻が酷いご婦人に光を入れた事があるんですけども、夫婦で

私の処に訪ねてみえた。

「先生、家の奴は七ヶ月にもなるのに、悪阻が酷くて大変なんです。どうしてなのでしょううか？」

悪阻の中には、食べ物合わないとか、以前に生まれた国の食事と、今回、日本に初めて出て来て、例えば、野菜食が合わない場合とか、母親との考え方が違ふとか、そういうもので出て来る訳です。

悪阻というのは、本当は手当て（両手の平で患部を挟むようにする）をして光を入れたら良くなるんですが、この人の場合は普通と違って強烈なんです。

「奥さん、横になってご覧なさい」

私は、お腹に光を入れながら、お腹の中の子に訊いてみた、

「あなたは、おかあさんの意識と不都合を起こして、悪阻が酷いそうだけれども、一体どうしたというの？」

「わたしは七ヶ月目なんですけど、実はわたしの両親になる人達は、わたしが生まれる事を祝福してくれません。ですから、心の中が穏やかではありません」

そう言うんですね。

「お宅たくらは、お腹の赤ん坊が『二人が、生まれて来る事を喜んでくれない』と言っているけれど、夫婦でそんな事を言っていたの？」

「えっっ？」

二人とも顔色かおいろがサツと変わってしまった。

「なんだ、言っているんだね」

「……はあ、実はそうなんです。お腹が大きくなるまで墮おろそうか、どうしようかと  
言っていました」

「お腹の赤ん坊がそう言ってるよ」

「えっっ！」

その赤ん坊が、もう一つ言った、

「わたしより先に出た、姉あねに対しても、二人は同じ事を言っていました」

「あなた達は、先に生まれた子供にも同じ事を言ったでしょうが——」

「えっっ……はい、すみません。でも先生……何故そんな事が分かるのですか」(笑)

「お腹の子が全部話してくれるんだよ」

「えっっ！」

もうこの二人、驚おどろいてばかり——。(笑)

そしてこういう話もありますね。妊娠中のお母さんの子宮しきゅうの中の音おとを録音ろくおんした。

そしてこの赤ちゃんが生まれた。赤ちゃんが泣く時に、その録音した音を聴かせたところ、ピタツと泣き止やんだ。

その音は、川の流れのようなザーツという音。これは血液けつえきの流れの音なんです。

この音に安心あんしんして泣き止やんでしまう。

そうすると、その録音の中に、お母さんの声と、相手あいての声も全部入っている訳ですよ。赤ん坊は、お腹の中で喋しゃべっている事を全部聴いていますよ。

私はその録音の話を聴いた時に、「あ、私がお腹の子とやり取りする事を証明しょうめいしてくれたな」と、そう思ったんですね。

そうすると、不思議ふしぎでも何でもないんですよ。我々われわれは眼に見えないから、不思議だと言うだけですね。——不思議じゃないんですよ。

そうすると、お母さんのこのお腹の中というのは、我々と次元じげんが違う訳です。お腹の中は四次元じげん以降の世界なんです。コンタクトしてから生まれて来るまでは、胎児たいじの状態の時は、大人なんです。魂なんです。

ところが、生まれて外そとに出たら分からなくなってしまう。人間は五官ごかん（眼・耳・鼻・舌・身）を通すと、分からなくなる。これは、そういうふうに出てくるんですね。これは到底とうてい、人間の力ではこんな事は出来ないですね。——それが私達なんです。一人一人の肉体を持っている私達です。

それだけ、素晴すばらしいものをみんなが持っているんですよ。

一九八四年三月